



皆様お元気でご活躍のことと存じます。
岡山歴史研究会は設立二年目に入り、
会員は二三三名に増えております。
本年度はまず四月二十九日に平成二十
三年度定期総会。約二百名の参加をいた
だき、議案審議後にパネルディスカッショ
ンを行いました。パネラーの方々の興
味深いお話を盛り上げりました。いただ
いた東日本大震災への義捐金十万円余を
山陽新聞社会事業団へ寄託しました。

最大の行事は十月二十一～二十三日の
設立一周年記念となる第二十七回全国
大会吉備の国岡山大会です。実行委員会
を岡山歴研メンバーで構成し、盛会裡に
三日間の大会を乗り切りました。改めて
関係各位に感謝とお礼を申し上げます。
全国に岡山歴研を強く印象づけられたと
思います。

この号は全
国大会特集号
とさせていた
だきます。

皆様お元気でご活躍のことと存じます。
岡山歴史研究会は設立二年目に入り、
会員は二三三名に増えております。
本年度はまず四月二十九日に平成二十
三年度定期総会。約二百名の参加をいた
だき、議案審議後にパネルディスカッショ
ンを行いました。パネラーの方々の興
味深いお話を盛り上げました。いただ
いた東日本大震災への義捐金十万円余を
山陽新聞社会事業団へ寄託しました。

岡山での第二十七回全国大会吉備
の国岡山大会では三百名のご参加を
いただきました。二日目、三日目の
見学会の見事な運営で、心配された
雨模様も吹き飛ばして参加者も歴史
の宝庫、岡山を味覚とともに堪能さ
れましたことと思います。

これも偏に岡山歴史研究会実行委
員会メンバーの取組み、創意工夫が
結実したものです。とりわけ、岡山
歴研設立わずか一年で実行委員長と
して実行委員会を率いた天野勝昭様
事務局長として大変ご苦労いただき
いた山本 敦様に改めて敬意を表し

ますとともに、実行委員会の方々の
ご尽力に感謝申し上げます。皆様方
の今後のご健勝、ご活躍そして貴会
のご発展を祈念申し上げ、全国の参
加者を代表し、紙面を拝借して、盛
せていただきます。

会報第二号の発刊にあたって

会長 天野 勝昭



第 2 号

2011年11月30日



お礼のことば（吉成主幹）

岡山歴史研究会の皆様へお礼

全国歴史研究会主幹 吉成 勇

吉備の国岡山大会



全国大会特集号

式典

〈第1日目〉

平成23年10月21日

会場 全日空ホテル



司会者

開会 午後2時	「司会」大会実行委員 稲見 圭紅・市川 仁美
開式のことば	大会実行副委員長 山崎 泰二
歓迎のことば	大会実行委員長 天野 勝昭
来賓紹介	大会事務局長 山本 敦
来賓挨拶	岡山県知事（代理）
全国歴研参加者ご紹介	福島県白河市長 高橋 邦彰
お礼のことば	歴史研究会本部運営委員 鈴木 高橋
閉式のことば	歴史研究会主幹 吉成 倭子
	大会実行副委員長 本松 勇一郎



参加者紹介



来賓



主催者

歴史の玉手箱を開く「吉備の国岡山大会」



開式宣言



来賓挨拶



岡山県知事代理



白河市長



来賓紹介



閉式宣言



書籍販売



受付

式典報告

山崎副委員長が開式を宣言。

実行委員長の天野勝昭岡山歴史研究会会长が「吉備の国岡山はまさに歴史の宝庫。講演会や見学会を通じて心ゆくまで堪能してほしい」と歓迎のあいさつ。

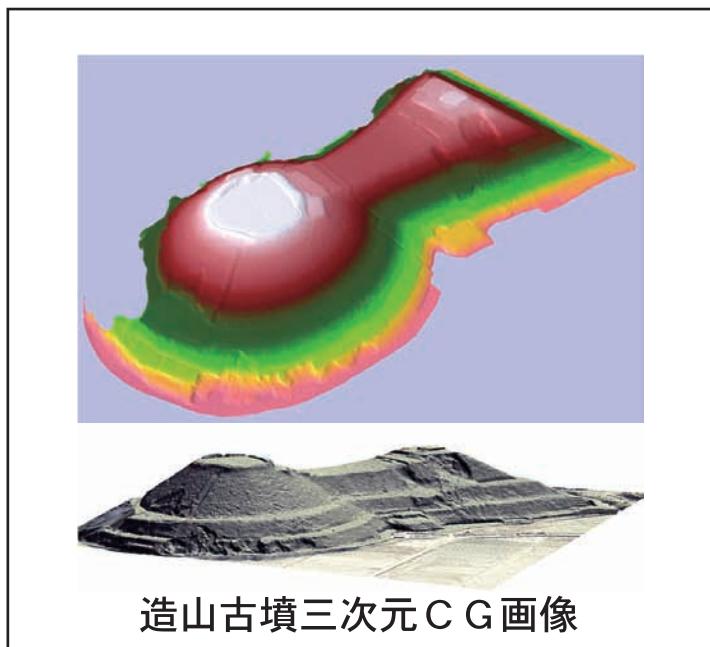
山本事務局長が来賓七名を紹介し、来賓代表として岡山県知事代理、環境文化部長高橋邦彰様が「この大会が吉備の文化を全国に発信する場となることを期待している」と知事祝辞を代読。

また、特別来賓として福島県白河市長鈴木和夫様が「東日本大震災で奥州白河市のシンボルである小峰城址石垣が崩壊した。復興に五、六年かかるが、その途上の来年十月十九日（二十一日、福島県白河市で歴史研究会全国大会を開催する）の日は、是非お越しください」とあいさつ。

高橋倭子様が本部会員の参加者約百二十名（実行委員会の募集者を除く）を紹介。

高橋倭子様が「岡山の実行委員会の教訓を今後の大会に活かす」とお礼のあいさつ。

本松副委員長の閉式宣言で終了した。



記念講演

にいろ いづみ
新納 泉先生
岡山大学大学院社会文化科学研究科教授



初公開

新資料研究成果披露



造山古墳 — 解明が進む全国第4位の巨大古墳

講演要旨

2009年から今春までの三ヵ年で、従来不明であった周濠を確認した経過を、写真や測量図で明解に説明。特に学生や地元住民の意見を聴きながら発掘し、畿内の大型古墳と同レベルの周濠が確認出来たと発表。短い期間であるが、吉備地域に列島最大の前方後円墳が築かれたことになり、この期間の政治的関係を理解するに大きな意味がある。当時の吉備が農業の他に瀬戸内海の航路・海運で力をつけたシンボルと力説された。

G P S を使った最新技術での正確な測量で、この古墳が三段築成で高さは1:1:3の比率。段築のテラス幅が一単位6.25mとなる一定のルールの基に造られたと説明。今後、前方後円墳の設計に関する研究を一步進めることができるとも期待される。

新しい技術は未調査の作山古墳（全国第9位）等の測量図化も容易で正確なものが期待できることを示唆された。

また陪塚の千足古墳の調査の過程で、この古墳の最大の遺産である石障に刻まれた装飾文様が激しく劣化していることを発見し、急速岡山市が文化庁の指導のもとに緊急対応をしているとの現状も話された。

（文責 山崎泰二）



記念講演
柴田 一先生

はじめ
柴田 一先生
就実大学名誉教授・
(財)岡山県郷土文化財団理事長



岡山の礎 宇喜多家から池田家へ
岡山城・城下町と新田開発

講演要旨

宇喜多直家・秀家二代と池田光政・綱政に仕えた岡山藩郡代津田永忠の時代は、岡山城築城から城下町造りの時代であるとの説明。

幕末まで続いた岡山藩の善政は彼らの功績が大きい。特に池田光政は徳川幕府の基本方針に沿って儒教朱子学を基軸に政治を行う一方、陽明学の熊沢蕃山を重用した。光政・綱政に仕えた津田永忠は城主の想いを実現させるために高い能力を発揮し、今に残る江戸期の事蹟は全てこの時代のものと説明。蕃山の説く治水論を発展させて百間川で城下を守り、新田を開発。その結果約二万石の増収は藩財政を潤し、多くの農民、漁民に働く場を提供した。

新田開発直後に建てられた沖田神社に伝わる「沖田姫」に関して、単なる伝説ではなく、人柱として入水したのは史実であると、通説を覆す先生の研究成果を力説された。

先生が最近出版された「津田永忠の新田開発の心」「沖新田・沖田神社と沖田姫」の著書に詳しいのでご一読を。

（文責 山崎泰二）



備中神楽

19F 「宙（そら）」の間



祝宴

司会・大谷・高橋本部役員



吉備の国岡山から奥州白河へ



開会挨拶
荒濱本部役員



天野・吉成



森崎岩之助底来賓挨拶



白河市長に義損金を渡す



本部役員による乾杯

次回開催地の事務局長と市長



山崎・金岡



次回開催の白河市より来訪のスタッフの挨拶

岡山大会実行委員挨拶



〈2日目〉古代吉備国と備中高松城趾探訪ほか

見学会 I



バス3号車



バス2号車



バス1号車



2011/10/22



宗治公の兄月清入道のご子孫清水講師

吉備路を堪能 地元ボランティアが活躍

バス三台で参加者一一八名を随行・現地スタッフ・ボランティア約五〇名でサポートした。

コースは全日空ホテル発→吉備津神社（記念写真）→造山古墳→備中高松城址→稻荷ときわや（講話と昼食）→楯築遺跡→作山古墳・備中國分寺→後楽園→全日空ホテル。

昼食会場では清水宗治兄（月清入道）のご子孫、清水男（だん）先生に「備中高松城水攻めについて」の講話を、また、楯築遺跡では古代衣装の倉敷市文化財保護課長福本明先生の説明。

造山古墳、高松城址、楯築弥生墳丘墓遺跡、後楽園ではボランティアの大歓迎を受けた。

「晴れの国岡山」とはいえ、今にも降りそうな空模様だったが、幸いにも雨にも会わなかつた。



後楽園の観光ボランティアと



造山古墳は奥田さんの案内



造山古墳

〈3日目〉岡山藩郡代津田永忠の足跡と備前焼探訪ほか

見学会 II



旧閑谷学校で論語音読



國友講師



講堂の床磨き



南大窯跡見学



延原講師の指導で土ひねり

論語音読
土ひねり
盛りだくさん



備前焼上西講師



長船刀剣博物館

最終日はバス二台で参加者七四名を随行・現地スタッフ・ボランティア約三〇名でサポートした。コースは全日空ホテル発→旧閑谷学校→備前焼伝統産業会館（講話と昼食）→自由行動【史跡伊部南大窯跡巡り・備前陶芸美術館・備前焼土ひねり・買い物】→備前長船刀剣博物館→倉安川吉井水門→沖田神社→百間川（車窓から）→岡山城（解散式）→岡山駅西口。

旧閑谷学校では希望者四五名が国宝の講堂内で円座・椅子に座り講師國友道一先生の指導による論語の音読体験を、また昼食会場では、備前陶芸美術館学芸員の上西高登先生による講話「備前焼について」を聞き、昼食では新日本料理『四季彩』の素晴らしい弁当に参加者全員満足した。

自由行動では十二名が延原勝志先生の指導で備前焼土ひねりを体験。南大窯跡見学、伊部街巡りを楽しみ、備前長船刀剣博物館、岡山城と巡り、岡山城では解散式が行われ大会三日間が無事終了した。

大会終了後、柴田一先生から「全国からの皆さんを暖かく迎えることができて非常に良かったね！」とねぎらいの言葉。



倉安川吉井水門



さようなら



岡山城・解散式

第1回 岡山歴研探訪会『岩屋城跡』— 室町時代から争奪戦が繰りかえされた山城



参加者の皆さん

岩屋城跡の概要

岩屋城は現在の津山市の西端（中北上）にある山城で、室町時代、美作国守護に任せられた山名教清が1441年に自分の城として築城しました。以来、美作国の制覇を賭け、戦国時代、山名、赤松、浦上、尼子、宇喜多、毛利の各大名が戦乱、争奪を繰り返し、約150年続いた後、野火により焼け落ちました。

この城は岩屋山の山頂（標高483m）に本丸を置き、本丸を中心として三方向に曲輪を配し、複雑な梯郭式の山城です。水源に恵まれ、かつ本丸からの眺望は非常によく、東方に津山盆地一帯、西方には久世、落合、勝山まで見渡せる。眼下に出雲往来が通じており、津山盆地、真庭地域を押さえる位置にあることからこの地に築城されたと考えられる。

現在は、本丸跡、井戸、堀切、てのくぼりといわれる堀跡、馬場跡等に往時の名残を留めている。（「岩屋城を守る会」の資料をもとにまとめました。文責 楠 敏明）

十一月二十六日(土)岩屋城跡を探訪。雲一つない小春日和で六五名が参加。麓の「夢の広場」に地元の岩屋城を守る会の北会長をはじめ十数名による法被を着ての熱烈な歓迎を受けた。

当会顧問の美作の中世山城連絡協議会山形省吾研究部長、長瀧事務局長、岩屋城を守る会、北会長以下会員の案内で急な坂道を岩屋城（標高四八三m）へ、陣城、土塁、慈悲門寺跡、山王宮参拝、竜神池を経て頂上へ。馬場跡で守る会の方が運んでくれたボリュームたっぷりの弁当に舌鼓を打つ。山形講師から判りやすい岩屋城の説明があり、頂上の本丸跡、落し雪隠という大絶壁から大堀切〈てのくぼり〉を見ながら下山した。

全国大会特集号をお届けします。
発足一年の「岡山歴研」ですが、会員の皆様の創意工夫とおもてなしの心が、全国大会参加者の多くの皆様に感動を与えることができたのではないでしようか、
この力をバネに新しい年を迎えましょ。

[ご案内] おまたせしました!!
矢坂山(万成山・魚見山)探訪会
前回、悪天候のため延期していた矢坂山探訪会を下記の要項で実施します。
日時=1月7日(土) 9時~
集合=ザ・ビック一宮店駐車場
案内=野崎 豊氏(当会顧問)
担当=山崎泰二副会長、他
見所=戦国時代、松田氏の拠点城となつた富山城跡。名前の珍しい北向八幡宮、一般に知られていない隠れた磐座(いわくら)などをご案内します。

〈今後の予定〉

- 12/18 (日) 実行委員会解散式
- 1 / 7 (土) 矢坂山探訪会
- 2 / 2 (木) 顧問・運営委員合同会議
- 3 / 15 (木) 会報第3号発行
- 4 / 下旬 平成24年度定期総会



山形講師の説明



岩屋城を守る会の皆様